

前立腺がん

～気づきにくいけれど、早期発見が大切です～

泌尿器科医 三谷 一貴

前立腺がんは男性に特有のがんで、年齢とともに増加します。
特に50歳以上の方では身近な病気の一つであり、日本でも患者数は年々増えています。
一方で、早期に発見できれば治療が可能ながんでもあり、定期的な検査が大切です。

がんの罹患数と死亡数(男性)

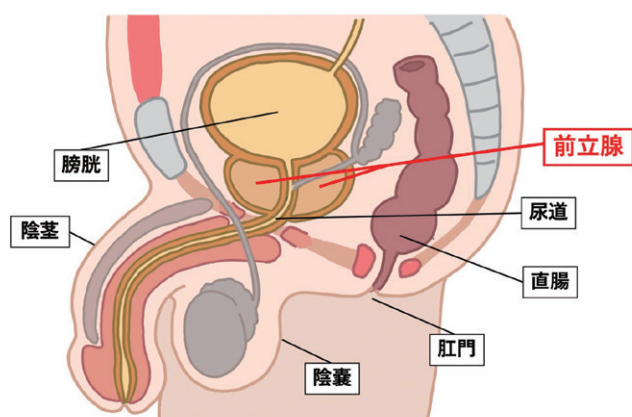
順位	罹患数 (かかる方が多いがん)	死亡数 (亡くなる方が多いがん)
1位	前立腺がん	肺がん
2位	大腸がん	大腸がん
3位	胃がん	胃がん
4位	肺がん	膵臓がん
5位	肝臓がん	肝臓がん

※国立がん研究センター がん統計参考で作成

前立腺がんは罹患数は1位と非常に多い一方で、死亡数では上位に入っていません。これは進行が比較的ゆっくりなものが多く、早期に発見し適切な治療を行うことで、命に関わる可能性を下げられるためです。そのため、「いかに早く見つけるか」がとても重要になります。

初期には症状がほとんどありません

前立腺は膀胱の下にあり、尿道を取り囲む臓器です。がんが進行すると尿の出にくさや頻尿などの症状が出ることがありますが、初期の段階ではほとんど自覚症状がありません。また、これらの症状は前立腺肥大症でもよくみられるため、症状だけで前立腺がんを見分けることは困難です。



【図1】前立腺の位置

早期発見のためには検査が必要です

前立腺がんの発見には、まずはPSA検査という血液検査が広く用いられています。採血のみで簡単に行うことができ、体への負担も少ない検査です。異常値を認めた場合には、さらに詳しい検査を行い診断を進めていきます。自治体の検診や人間ドックで受けられることもあります。



【図2】検査の流れ

治療は一人ひとりに合わせて行います

前立腺がんの治療には、手術や放射線治療、ホルモン療法などがあります。がんの進行度や年齢、体の状態などを総合的に判断し、最適な方法を選択します。また、すぐに治療を行わず慎重に経過をみる「監視療法」が適応となる場合もあり、患者さんごとに治療方針は異なります。

気になる方はご相談を

前立腺がんは「症状がないうちに見つけること」が重要です。50歳を過ぎたら、一度はPSA検査を受けることをおすすめします。「まだ大丈夫」と思わず、気になることがあればお気軽に泌尿器科へご相談ください。